

# 令和3年度の事業進捗評価

基本施策	No	取組名	担当課/団体	目標・評価方法	目標に対する評価
(1) 花と緑のある 安らぎの場の拡大	1	緑化資材の提供	静岡県グリーンバンク	花づくりや緑化活動に多くの県民が携わり、公共的な施設等に花と緑のある安らぎの場を提供するため、緑化資材の提供を毎年度4,000団体に実施することを旨とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度利用団体数は、目標4,000団体、実績4,481団体、達成率112%。</li> <li>地域の緑化ボランティア団体が行う公共的花壇の維持管理に必要な緑化資材の供給源として周知され、多くの県民が緑化活動に携わり不可欠な事業となっている。</li> <li>定期配布事業により提供された資材により、公園や学校など地域の公共花壇が花と緑で彩られ、市民に安らぎを与えることができています。</li> </ul>
	2	花の都づくり	農芸振興課	花の魅力の発信や花に触れる機会を創出するため、花緑出張サービス等で実施する花育講座の受講者数を毎年度2,400人となることを旨とする。ホームページ閲覧数 31,000件/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ閲覧者数(令和3年度ホームページ閲覧数:26,042件)は目標に達しなかったものの、新型コロナウイルス感染症が感染拡大し中止された花育講座が複数あった中、花緑出張サービスによる花育講座の受講者数は目標人数の89%となり、花の都しずおかへの浸透が図られた。</li> </ul>
	3	花育活動(寄せ植え)	静岡県グリーンバンク	幼稚園等が花育研修を実施することで、子供達が幼少期から花や緑と親しむ機会をつくり、緑化活動の重要性と命の大切さを醸成する。花育研修を実施する幼稚園・保育園・こども園にアンケート調査を実施することで、事業効果を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>花育教室を現在的方式で実施するようになった平成28年度と現在の令和3年度を比較してみると、参加園数で276.8%、参加園児数で224.7%と大幅に伸びており、目標である幼少期から花や緑と親しみ緑化活動の重要性と命の大切さを醸成する機会の創出につながっている。</li> </ul>
	4	【R3～取組名変更】 里山学習施設の管理運営 及びプログラムの提供	環境ふれあい課	県民が自然と気軽にふれあう機会を創出するため、自然ふれあい施設における自然体験プログラムを毎年度180回実施することを旨とする。(管理指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3密を避け、誰もが気軽に自然とふれあえる施設としての魅力を発信するとともに、企業の協力やアイデアを得ながら、ハード、ソフトの整備に取り組んだ。また、利用者の安全確保のため、施設の更新を進めた。</li> <li>コロナ禍にも関わらず、目標の8割程度の実績を達成しており、概ね評価できる。(令和3年度:自然体験プログラムを141回実施)</li> </ul>
	5	森林環境教育プログラムの提供		※取組番号④と統合	-
	6	しずおか棚田・里地 くらぶ	農地保全課	しずおか棚田・里地くらぶによる棚田保全に係る意識啓発や、活動への参画を促す取組により各棚田保全活動への支援の輪を広げ、「ふじのくに美しく品格のある色づくり」全体の参画者数として、毎年度2,400人増を旨とする。(管理指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動の規模を縮小した棚田もあったが、年間を通じた活動参加者は維持した。(R3:ふじのくに美しく品格のある色づくりの参画者数 75,329人(令和2年度から2,271人増))</li> </ul>
	7	ふじのくに色彩・ デザイン指針	景観まちづくり課	ふじのくに色彩・デザイン指針に基づく高質な公共施設整備を推進するため、研修会への参加市町数により評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高質な公共空間の形成に資する研修会への参加市町数は、全35市町であり、「ふじのくに色彩・デザイン指針」の理解を進め、指針に基づく公共施設整備を推進した。</li> </ul>
	8-2	【R1～追加】 安全で美しいいなみ 整備	住まいづくり課	一定の基準に達した住宅地を「豊かな暮らし空間創生住宅地」として認定する。令和7年度までに認定区画数600区画を旨とする。(管理指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会の開催やイベントへの出展が認定地の増加につながり、事業は着実に進んでいる。(認定区画数 令和2年度:314区画 → 令和3年度:360区画)</li> </ul>
8-3	【R3～追加】 みどりの住環境整備事業				
(2) 芝と親しみ、 スポーツを楽しむ 機会の増大	9	芝生地の普及支援、 管理支援	静岡県グリーンバンク	普及支援は、芝生化した園庭・校庭数(管理指標)で評価する。管理支援は、芝生管理活動支援事業の継続により毎年度30団体を支援することを旨とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(園庭等芝生化モデル事業)</li> <li>芝生化した園庭・校庭数 目標R7:96箇所 実績R3:69箇所 達成率:72%</li> <li>園庭に芝生を導入した市町 目標R7:35市町 実績R3:18市町 達成率:51%</li> <li>これまで実績のない菊川市でこども園1箇所が芝生化を実施。(芝生管理活動支援事業)</li> <li>地域の緑化活動団体数 目標R7:300団体 実績R3:219団体 達成率:70%</li> </ul>
	10	芝生アドバイザーの育成・ 活用	静岡県グリーンバンク、 芝草研究所	芝生の適切な維持管理を支援するため、芝生に関する講座の修了者数とともに、芝生アドバイザー派遣箇所数(管理指標)により評価する。また、受講者や専門家の派遣を受けた園、施設等にアンケートを実施し、効果をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度に開催した芝生教室の参加者アンケートでは、参加者の97%が「良かった」「どちらかといえば良かった」と回答し、自由意見でも「芝生の基礎的なことを学べて良かった」等の声が寄せられ、好評を得た。</li> <li>芝生アドバイザー活用では、園庭の芝生に裸地が目立つようになってしまった施設に対し、適切な助言と指導を行うことで芝生を復活させ、施設から喜びの声が寄せられた。</li> </ul>
	11	用途に応じた芝生の開発	芝草研究所	身近で使いやすい芝生を普及するため、研究成果の活用を進め、芝生化した園庭・校庭数(管理指標)により評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>芝生文化創造プロジェクトが開始された平成24年度から令和3年度までに、芝草研究所による技術支援により22箇所41,631㎡、グリーンバンクによる補助事業により69箇所、35,309㎡の芝生化を実施しており、確実に県内の芝生地が拡大している。</li> </ul>
	12	工場緑化セミナー	企業立地推進課	本県の工場緑化に係る理念を浸透させるため、工場緑化セミナーの参加者にアンケートを実施し、理解度を測る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場緑化セミナーについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止としたため、アンケート調査は未実施である。</li> <li>緑化優良工場としての受賞件数は、令和3年度末時点で累計88件となり、着実に受賞件数を増やしている。</li> </ul>
	13	県営都市公園の指定管理 による芝生の良好な維持	公園緑地課	施設利用にあたって芝生の快適な状態を維持するため、芝刈りの回数など維持管理に関する年間計画を立て、達成状況により評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれの公園においても、年間計画を目安に以下のとおり、実態に応じた維持管理を実施することができた。</li> <li>(愛鷹広域公園) ティフトンの被覆力向上で刈り込みを増やし、施肥による肥効が切れないように配慮して実施できた。</li> <li>(草薙総合運動場) 排水の悪い箇所を重点的にエアレーションや目砂散布を行い、排水性の改善を図った。</li> <li>(小笠山総合運動公園) 夏芝の地下茎量の減少が目立ったため、地下茎量の増加を図る管理(エアレーションの回数増等)を7月中旬～9月上旬にかけて行った結果、地下茎量が増加し、クオリティを維持することができた。</li> </ul>
(3) 花と緑による おもてなし空間の 創造	14	【R3完了】 花と緑のおもてなし空間 整備支援	静岡県グリーンバンク	2020東京オリンピック・パラリンピックに向けての取組であり、令和2年度の実績(8箇所)で短期目標値(7箇所)を達成したため事業完了とする。本取組で整備したおもてなし空間は、緑化グループ支援事業を活用し、地域のボランティア団体が継続的に管理ができるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに整備したおもてなし空間の花壇等は地域に受け継がれ、地元の緑化ボランティアの手により維持管理が続けられている。</li> </ul>
	15	公共施設の緑化 (県庁本庁舎)	資産経営課	季節感のある庁舎の演出を図るため、農業高校・農林環境専門職大学と連携して庁舎内や窓辺にプランターや寄せ植え鉢を設置し、その実施回数・実施時期により評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「親しみやすい県庁」とするため、県立の農業高等学校や農林環境専門職大学の生徒が授業にて栽培した花プランターを県庁本館(正面側)の窓辺に設置した。</li> <li>花制作の依頼先および展示場所・展示時期が令和2年度と変更がなかったため、令和2年度と同程度と評価する。</li> </ul>
	15-2	公共施設の緑化 (県立美術館、地球環境史 ミュージアム、グランシップ、 舞台芸術公園)	文化政策課	良好な緑化環境を維持するため草木等の適切な維持管理を行い、利用者アンケートの満足度により評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設を訪れる方々に快適な空間を提供できるよう、各施設において樹木の剪定、芝生の管理、草刈り等を計画的に実施した。</li> <li>適切な植栽管理等を行った結果、良好な緑化環境を維持することができた。</li> </ul>
	15-3	公共施設の緑化 (日本平夢テラス)	観光政策課	国内外からの観光客を出迎えるのにふさわしい庭園空間を維持するため草木等の適切な維持管理を行い、緑化に関する来館者意見(1階インフォメーションに常設)により評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本平において、国内外からの観光客を出迎えるのに相応しく、常に四季折々の花が咲き、樹木や草花に囲まれながら散策ができる庭園のような空間として整備した日本平夢テラス前庭について、来訪者に快適な空間を提供できるよう、樹木草花の適切な維持管理を行った。</li> <li>適切な維持管理を行った結果、良好な緑化環境を維持することができた。</li> </ul>
	16	県立森林公園 アカマツ林再生	環境ふれあい課	県立森林公園のシンボルであるアカマツ林の再生、保全を図るため、ボランティアによる保全活動の実施状況(回数、参加人数)により評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>県、指定管理者、民間ボランティア、企業が連携し、県立森林公園のシンボルであるアカマツ林の再生、保全が継続して行われており、評価できる。</li> </ul>
	17	【R1完了】 多様な森林景観づくり	森林整備課	2020東京オリンピック・パラリンピックに向けての取組であり、令和元年度で事業による整備は完了。今後は、これまでに蓄積した森林景観整備の手法を生かしながら整備を実施していく。	-

基本施策	No	取組名	担当課/団体	目標・評価方法	目標に対する評価
(4) 花と緑がある まちの魅力の向上 と発信	18	さくら愛護思想普及の 推進	静岡県さくらの会	県民が桜に親しむ機会を増やすため、静岡県さくらの会のホームページを充実させ、アクセス数により評価する（管理指標）。アクセス数は継続的に記録し、年ごとの傾向と桜への関心度の変化を分析して情報発信に生かす。	・令和3年度はさくら写真コンクールで若者向けの「U-25賞」の新設や、入賞写真の展示場所を新規開拓するなど、新たな手法によりさくら愛護思想普及に取り組んだが、静岡県さくらの会のホームページのアクセス件数は目標450,000回アクセスに対し、431,495回アクセスと目標には届かなかったため、引き続きさくら愛護思想普及に取り組む。
	19	さくらの保護育成	静岡県さくらの会	さくらの保護育成に関する意識向上を図るため、さくら功労者の表彰やさくら相談員派遣事業を実施し、派遣を受けた個人・団体からの声により意識の変化、満足度を評価する。	・さくら相談員派遣事業では、毎回桜の管理者から、枝はいつ切るのか、肥料はいつやれば良いか等多くの質問があり、桜の維持管理について技術的な不安を抱えている管理者が多いことが見受けられ、派遣した専門家の的確なアドバイスにより、その不安に答えることができていた。
	20	ふじのくに花の都 しずおか・花緑 コンクール  【R3～追加】 花育活動の推進	農芸振興課	県内における花の都づくりを広く展開するため、地域や企業における花の利活用や、学校等における花育活動を推進。花緑出張サービスで実施した花育講座の受講者数により評価する。（管理指標）	・花緑コンクールでは、新たにインスタフォト部門を導入したことにより応募件数が増加した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により複数の講座が中止されたものの、花緑出張サービスの花育講座受講者数は目標人数の89%となり、地域や企業における花の利活用や、学校等における花育活動の浸透が図られている。
(5) 社会総がかりの 緑化活動への 参加促進	21	しずおかアダプト・ ロード・プログラム	道路保全課	快適な道路空間を創出するため、地域住民や企業等の道路清掃や美化活動を支援し、活動道路延長、活動人数により評価する。	・地域住民や企業等の道路清掃や美化活動を支援したことにより、快適な道路空間の確保が図れている。 ・同意書締結：182団体、活動延長155km（令和3年3月末）→187団体、活動延長164km（令和4年3月末）
	22	リバーフレンドシップ 制度	河川企画課	「みんなの川」を「みんなで守っていく」意識を高め、身近な河川の治水や環境保全に関する意識啓発を図るため、制度活用による保全活動の実施状況（団体数等）により評価する。	・リバーフレンド団体の締結数は、増加率は少ないものの年々増加している。（令和3年度は新たに15団体と同意書を締結） ・締結解除団体が増えており、持続可能な活動のための制度改善に努めていく必要がある。
	23	ふじのくに美農里 プロジェクト	農地保全課	多様な主体の参画等を得ながら活動の持続性を確保するため、「ふじのくに美農里プロジェクト」を含めた「ふじのくに美しく品格のある色づくり」全体の参画者数として、毎年度2,400人増を目指す。（管理指標）	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、総会等の密になりやすい取組は縮小したが、年間を通じた活動参加者は増加した。 （R3:ふじのくに美しく品格のある色づくりの参画者数 75,329人（令和2年度から2,271人増））
	24	一社一村しずおか運動	農地保全課	「企業」「農村」双方の意識の醸成と取組の拡大を図るため、ウェブサイトを通じて先駆的な優良事例を紹介。「ふじのくに美しく品格のある色づくり」全体の参画者数として、毎年度2,400人増を目指す。（管理指標）	・新たに農山村と企業の取組認定はなかったが、本取組による参画人数は増加した。 （R3:ふじのくに美しく品格のある色づくりの参画者数 75,329人（令和2年度から2,271人増））
	25	森づくり県民大作戦	環境ふれあい課	県民が森林を守り、育て、活かす行動を実践する機会を提供するため、森づくり県民大作戦に毎年度28,000人参加してもらうことを目指す。（管理指標）	・新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント中止や規模縮小が続き、感染拡大前の実績までの回復には至らなかったが、令和3年度の参加者数は12,972人、行事数が657で、いずれも前年度（R2:参加者数11,898人、行事数648）を上回った。
	26	しずおか未来の森 サポーター	環境ふれあい課	企業の社会貢献活動やSDGs達成の取組を森づくりにつなげるため、しずおか未来の森サポーターに累計144社の登録を目指す。	・社会貢献活動に加えて、生物多様性の保全やSDGs等、森づくりと関連の深い取組に関心のある企業等に対して制度を普及し、森づくりへの参加を促進した結果、新たに10社の参加が得られ、目標の累計144社を達成した。
	27	ふじのくに森の防潮堤 づくり	森林保全課	防潮堤への理解促進と植栽木の管理等への協力意識の醸成を図るため、地域住民や地元企業による植樹祭等を実施し、参加者からの声から防潮堤への理解度や協力意識の変化を評価する。	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、県が実施する植樹祭は全て中止した。
	28	【R3～追加】 緑化グループ支援事業	静岡県グリーン バンク	自立した緑化活動の推進と地域コミュニティの形成を支援するため、毎年度140団体を支援することを旨とする。	・地域の緑化活動団体数 目標R7:300団体 実績R3:190団体 達成率:63% 単年度で22団体の増加を見込んでいる。R3は3団体の増加。 ・高齢化、コロナ禍等で地域における活動や組織数が減少しているが、緑化グループ支援事業を活用する団体数は、微増ではあるが 増加している。
(6) 緑化活動の 核となる人材の 育成	29	緑化コーディネーターの 育成・活用	静岡県グリーン バンク	地域における緑化活動の核となる人材を育成するため、緑化コーディネーター養成講座の修了者数の累計人数を令和7年度までに390人にするを 目指す。修了者にはアンケートを実施し、活用状況の評価する。	・緑化コーディネーター養成講座修了者数 目標R7:390人 実績R3:230人 達成率:59% 単年度で50人の増加を見込んでいる。R3は89人の増加。 ・緑化コーディネーター養成講座の修了生を緑化グループ支援事業の新規団体に派遣し緑化活動の支援を行った。（28団体55回）